

奄美市の状況

- ・名瀬地区において、自治会設置率が低い(特に、市街地)
- ・市街地は、隣近所とのつながりが薄い
- ・人口減少、一人暮らし高齢者、高齢者のみの世帯増加、子ども達は島外居住多い ⇒キーパソンが身近にいない人も多い
- ・団地での高齢化、一人暮らしの孤独死
- ・要支援1,2の介護保険認定者(33.3%)サービス利用が多い
- ・第6期介護保険料は県内でも2番目に高い
- ・核家族が多く、共働きの家庭も多い
- ・子育て支援が必要な親子も多い・・・等々

いいところ

- ・民生委員の積極的な地域活動が多い傾向
- ・地域の状況を気にして動いてくれる方もいる
- ・団塊の世代で元気な方も多い
- ・地域によっては集落の助け合いができていいる所もある(結いの精神の継承)



総合事業、生活支援体制整備事業、認知症対策等も、 全てつながっていく

- ・事業展開をしていくためには、1人の担当職員だけでは、負担が大きい
- ・職場の仲間の理解、市役所の関係各課や関係団体の理解・協力が必要。

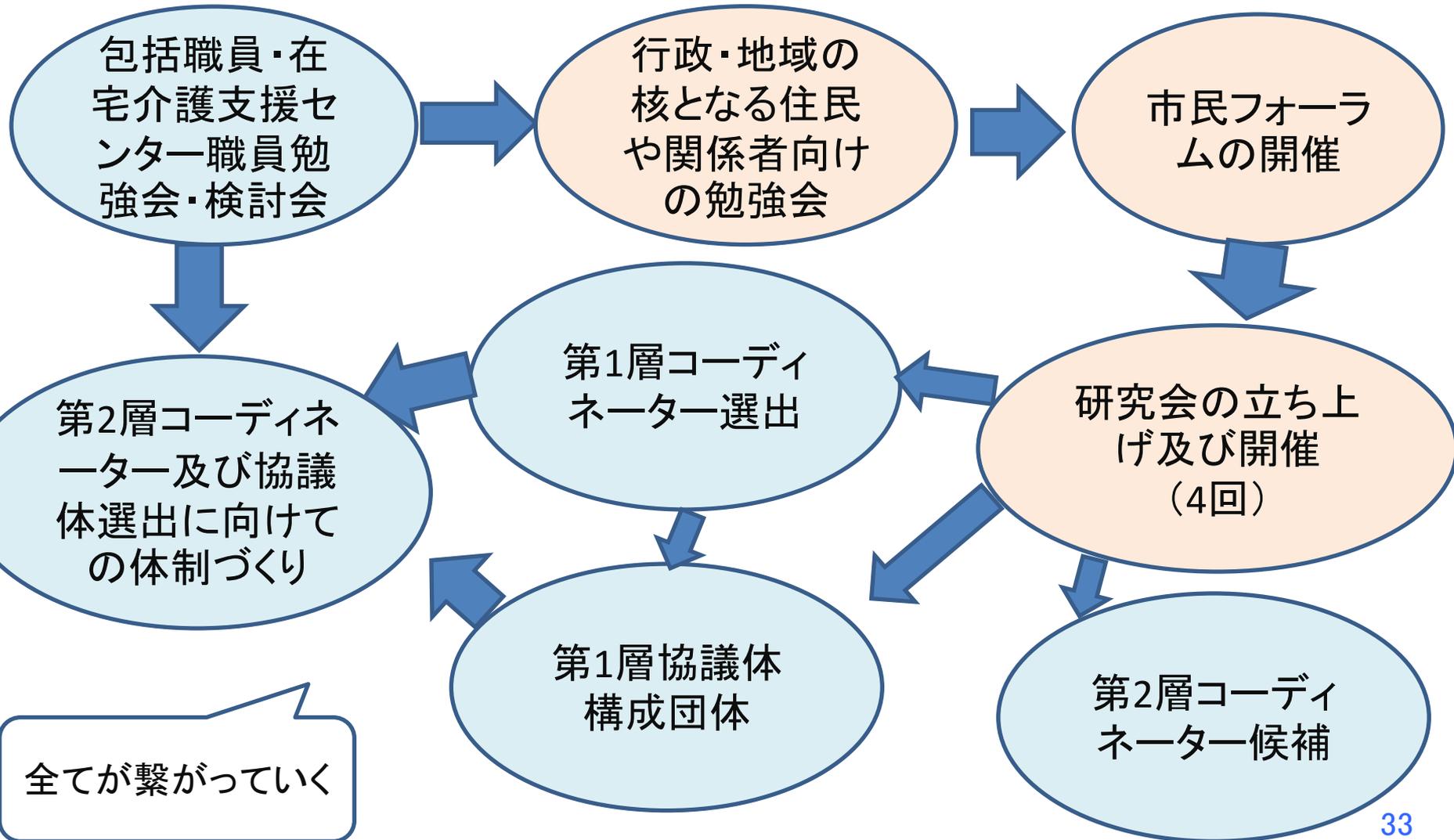
そして、何よりも住民の理解は、不可欠



- ・地域での支え合い体制の必要性について
⇒住民への理解をすすめるとともに、**住民と一緒に**地域を見直し、地域に必要な資源を考えていく。
(住民の理解や資源づくりには、時間がかかる)



勉強会から第1層コーディネーター選出から 第2層協議体設立までの経緯



「地域支え合い体制づくりを考える会」として 研究会を開催

目的：地域住民や行政、関係者が一緒になり地域での支え合い体制の理解を深めながら、第1層の協議体構成員や生活支援コーディネーター選出を目的として研究会を行う。

開催回数：4回（18:30～20:30） 多くの方が参加者しやすい夕方に開催

◇開催前には、毎回、各支所の包括職員、在宅介護支援センター職員を含めた打ち合わせを行い、開催内容の確認や情報共有を行う

第1回目：日時：平成27年6月29日 79名参加

内容：①保健福祉部長挨拶

②講話「地域での助け合いの必要性」 さわやか福祉財団 鶴山芳子氏

③「奄美市のめざす地域像について」・・・グループワーク及び発表



発表も住民の方で



奄美市の第1層コーディネーター 選出



多くの住民が「支え合い体制の必要性」を理解し、多くの中で選定される事が、今後の活動する中で理解が得られやすい。

第1層生活支援コーディネーターの人となり

- ・みんなのために・・・
- ・フットワークが軽い
- ・地域のつながりが 必要
と思う気持ち
- ・有屋町内会長
(人口約1,300人)
- ・新しい体制での自治会
立て直し
- ・地域住民からの信頼
- ・朝から晩まで公民館
- ・元市役所職員
- ・行政や関係機関との
つながりが多い
- ・大局的に見れる視点

第1層協議体構成員選出

研究会の中において、奄美市のめざす地域像をもとに、協議体構成員の団体を選出できていたことから、各団体から代表者を選出してもらう。



自治会、第2層からの代表、地域包括支援センター、社会福祉協議会、民生・児童委員、老人クラブ、子ども会育成会、子育て世代の母親、シルバー人材センター、社会福祉法人、在宅介護支援センター、介護支援専門員協議会、体育協会、障害者自立協議会、NPO法人

地域支えあいをすすめるために 何かからはじめるか・・・みんなで考える



笠利地区



地域で支える・支えられる体験ゲーム

地域住民へ第2層メンバーの紹介



地域住民へ取り組みへの理解を深める 生活支援コーディネーターの周知 ニーズと担い手の掘り起しを目的に

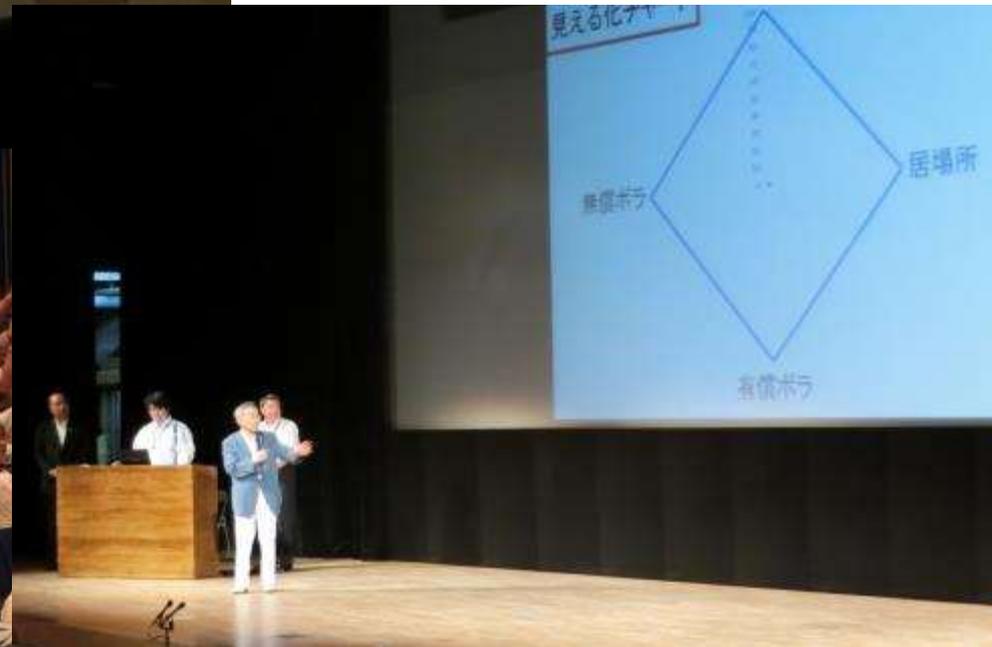
「地域支え合いフォーラムを開催」

- ◆日時：平成28年7月3日（日） 13:30～16:30
生活支援コーディネーターや協議体による実行委員会を
立ち上げ、第2回地域支え合いフォーラムを開催
- ◆参加者：約400人（前回のフォーラム250人）
- ◆内容：
 - ・奄美市の現状について
 - ・1層、2層の生活支援コーディネーター紹介
 - ・講演「助け合いが広がるまちづくり」
公益財団法人さわやか福祉財団
会長 堀田 力 氏
 - ・パネルディスカッション
（奄美市や先進地での取組みなど）



フォーラムの様子

- ・コーディネーター紹介
- ・見える化チャートによる住民参加



根瀬部婦人会の取り組み 「モーニングカフェ」

平成27年3月の支え
合いフォーラム後に
立ち上がる

話しができる
場所

お茶が飲める
場所

憩いの場所

そんな場所が
あったらいいね



地域活動を展開するための勉強会の開催 (居場所づくり、有償ボランティア)



地域包括ケアのまちづくりー大船渡市の事例から

概要

さわやか福祉財団の復興支援を機に住民グループが発足。その後、市・さわやか福祉財団と協働して「**地域包括ケアのまちづくり**」を推進。地域助け合い協議会（市版）として第1層協議体を設置。地区版地域助け合い協議会（第2層協議体）は地区ごとに自主的に設置するように進行中。2015年10月から順次、地区版地域助け合い協議会（第2層協議体）の立ち上げをすすめている。

【協議体づくりの経緯】

2012年5月

- 復興のための住民のグループワークから、末崎地区公民館長をリーダーとした「大船渡共生まちづくりの会」が発足（2014年10月にNPO法人認証）

2014年3月

- 全国に先駆けて「新しい地域支援のあり方を考えるフォーラム」を開催。地縁組織や行政、社協も参加

2015年4月

- 市が地域包括ケア推進本部をたちあげ、第一回会議を開催。地域包括ケア推進室も新設

2015年5月

- 市版「地域助け合い協議会」（第1層協議体）発足
- 地域住民向け勉強会「地域助け合い創出研会」を市とNPO法人（大船渡共生まちづくりの会）で共催

2016年1月

- 地域包括ケア・支え合いのまちづくりをすすめるために「包括連携協定」を市とさわやか福祉財団が締結



大船渡市 地域包括ケア推進体制のイメージ図

市内地域包括ケア推進本部

構成員:市長、副市長、教育長、関係部局長

- 市内の政策課題を共有、担当部署を明確化
- 市で実施すべきこと、他の行政機関や民間事業者等に働きかけること等について整理、政策に反映
- 政策への反映状況についてフォローアップ ※検討状況は随時公表

地域助け合い協議会 (大船渡市版)

構成員:市役所、県広域振興局、地区まちづくり推進員、社会福祉協議会、民生児童委員協議会、市民活動支援センター、老人クラブ、シルバー人材センターなど ※代表者レベルを想定

- 地域で解決できない課題について、具体的解決手法を検討

地域助け合い協議会
(盛地区版)

地域助け合い協議会
(大船渡地区版)

地域助け合い協議会
(末崎地区版)

...

地域助け合い協議会
(越喜来地区版)

地域助け合い協議会
(綾里区版)

地域助け合い協議会
(吉浜地区版)

構成員:地区公民館長、地域公民館長、民生委員、地域福祉委員、老人クラブ、シルバー人材センター、婦人会、JA、漁協、介護事業所従事者など(地区の実情に応じて関係者を招集)

- 地域で解決できる課題 → 解決に向けた方策を話し合い、助け合い活動の創出
- 地域で解決できない課題 → 地域助け合い協議会(市版)へ提案

推進本部の庶務及び協議会の運営は、「地域包括ケア推進室」(新設)が実施



大船渡市 地域助け合い協議会のイメージ図

(大船渡市資料から)

市

運営委託

地域助け合い協議会(大船渡市版)

地域助け合い創出研究会(オープン参加)

地域助け合い
協議会
(盛地区版)

地域助け合い
協議会
(大船渡地区版)

地域助け合い
協議会
(末崎地区版)

...

地域助け合い
協議会
(越喜来地区版)

地域助け合い
協議会
(綾里区版)

地域助け合い
協議会
(吉浜地区版)

生活支擧コーディネーター: 構成員の中から選出する。地区毎の生活支援サービスの充実に向けて、ボランティア等の生活支援の担い手の養成・発掘等の地域資源の開発や関係者とのネットワーク化などを行う。地区協議会のリーダーとなっていただく。

構成員: 地区公民館長、地域公民館長、民生委員、地域福祉委員、老人クラブ、シルバー人材センター、婦人会、JA、漁協、介護事業所従事者など(地区の実情に応じて関係者を招集)

※協議会の運営及び委託費の使い方については、各協議会に任せる。

- 地域で解決できる課題 → 解決に向けた方策を話し合い、助け合い活動の創出
- 地域で解決できない課題 → 地域助け合い協議会(市版)へ提案



大船渡市での勉強会



ワークショップ（地域別意見交換会）



生活支援体制整備事業－埼玉県の事例から

埼玉県と共に、**パッケージ推進プログラム**を全市町村に提案
希望自治体に支援実施（平成27年度～）

パッケージ推進プログラムとは・・・

各市町村による協議体の立ち上げ、生活支援コーディネーターの選任から
助け合いの創出・充実を、一連の取り組みとして個別支援するもの。

基本のプログラムとして勉強会の実施、新制度の周知と関係団体を含めた
核となる住民発掘に向けたセミナーの開催、住民の理解・担い手づくり促
進のための一般向けフォーラムの開催等を行っている。

すでに行われている活動や社会資源は最大限に生かしながら、それぞれの地
域の特性を踏まえて、市町村の状況により、必要なものを単独あるいは個々
に組み合わせて相談、実施の支援を行っている。

助け合い活動の実践者の思いや活動を知ってもらうための

「現場視察研修」を、県・県社協・さわやか福祉財団の3者で実施



羽生市の取り組みから 「とにかく、やってみる」

- 平成27年11月26日 第1回勉強会の開催
自治会、民生委員、ボランティア関係者等 90名が参加
助け合いゲームとグループワークを実施
グループワークテーマ
「地域にあってほしいサービスはどんなものか」
「そのサービスを実現させるために必要な人やモノ、手順」



羽生市の取り組みから

- 平成28年2月4日 第2回勉強会の開催
第1回勉強会のアンケートで引き続き勉強会に参加したい手を上げた方、と事務局がこの人に参加して欲しいと声をかけた方30名が参加した、グループワークを実施
グループワークテーマ
「事例をもとにした協議体話し合い体験」
「協議体を構成する人や組織に必要な要件」



以後も取り組みを続け、平成28年5月 第1層協議体発足

「居場所」と「有償ボランティアの相談窓口」の機能を持つ 「生活支援活動拠点」を設置支援

平成28年度は4か所設置、今後市内全9地区に設置していく予定。生活支援活動拠点は、ボランティアが常駐している高齢者が気軽に立ち寄れる「居場所」であるとともに、地区で活動するボランティア等が横のつながりを持つための活動拠点としての機能も持つ。

市全域に設置されている「支部社協」を基礎に、第2層協議体を 順次立ち上げ支援

モデル地区にて第2層協議体としての立ち上げ説明会を行い、設置

生活支援コーディネーター・協議体関係者による現場視察研修の 企画・開催

住民主体で地域の助け合い活動に取り組んでいる団体を訪問。活動者や参加者の思いを知り、体感することで、助け合いの創出のヒントを得る機会とした。

アドバイザーとして、その他に住民フォーラムの開催→活動希望者の把握、ボランティア養成講座・ワークショップ（助け合いについて語る会）・出前講座等々、多様な住民の思いを生かす形で推進



総人口:22,950人 65歳以上:10,070人(43.88%) 75歳以上:6,099人(26.78%)

(2016年8月現在)

総合事業を利用した新たなしくみ

人材育成から始まった
暮らしのサポートセンターの取り組み

「市民が主役の支え合う
仕組みづくりとその実践」

H24.9
設立



りんどう

H25.10
設立



よのほな

H26.11
設立



しらみず

H27.3
設立



あけぼの

H27.7
設立



ななわ

H28.2
設立



なんせい

H28.5
設立



にしだまり





「住民同士で支え合う」地域づくりのお手伝い 暮らしのサポートセンターについて

暮らしのサポートセンターは、地域住民の支え合いの気持ちを基本とし、安心して暮らし続けることができる地域づくりを目指して活動しています。暮らしのサポーター養成セミナーを受講した地域の方を中心に、介護保険などの公的サービスだけでは補えない、**暮らしのちょっとしたお困りごと**を、できる時にできる範囲でお手伝いします。

| | |
|---|---|
| <p style="text-align: center;">寄り合い場</p> <p>いつでも誰でも気軽に立ち寄ることができる「地域のお茶の間」</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 平日 9時～17時 (土・日・祝日を除く) • 参加は無料です。ご近所お誘いあわせで、自由にお過ごしください |
| <p style="text-align: center;">くらサポ広場</p> <p>介護予防教室や健康づくり教室、レクリエーション、楽しいゲーム、カラオケ など</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 毎週開催：10時～15時 • 参加料300円 昼食300円 • 送迎があります <p>※詳しい日程は、お問い合わせ下さい</p> |
| <p style="text-align: center;">「ちょっと困り」のお手伝い (有償生活支援サービス)</p> <p>買い物支援、家事援助、話し相手・見守り、外出支援、ゴミの分別、ゴミだし、季節の衣類整理、草取り・草刈り、軽農作業 など</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 1時間800円、30分400円 (草刈りなど機械使用時は30分毎に100円加算) <p>※広場と生活支援サービスをご利用になる際は、会員登録をお願いします。 (年会費1000円)</p> |

利用会員は、①高齢者及びその家族、②障がいのある方及びその家族、③子育て家庭、④その他必要と認められる家庭で、日常生活上家事援助等を必要としている人

暮らしのサポーター (活動会員)は、性別・資格不問、誰でも登録・活動が可能 (受領は1時間600円)

暮らしのサポーター (協力会員・賛助会員)は、住民参加の助け合い精神で趣旨に賛同して活動を支援する人。活動会員を含め、いずれも、サービスを利用することも可能



取り組みの流れ

2011年 竹田市経済活性化促進協議会の取り組みスタート。人材育成「暮らしのサポーター」の養成開始

2012年 第1号暮らしのサポートセンター「久住・りんどう」設立。市内を中学校区7圏域（第2層エリア）に分け、2016年5月にすべての圏域に設立済み

→事業に取り組んできた事業支援員が、第1層・第2層生活支援コーディネーターとして活動

2015年 「新しい地域支援のあり方を考えるフォーラム」を開催。実行委員会をもとに「新しい地域ささえ愛推進会議」を発足

→横断的なつながりを形成

→さらに幅広い地域課題を話し合う場の重要性を確認し、17の地区社協ごとに「よっちはなそう会」を推進

2016年 「新しい地域ささえ愛推進フォーラム」を開催。

→推進会議をベースに、第1層協議体の充実をすすめ、併せて地区ごとの住民座談会（よっちはなそう会）を推進しながら、第2層協議体づくりをすすめる

地域アセスメント・助け合い創出の ここがポイント

研修を活用した地域掘り起こし、人材育成

- ・福祉に関心を持ってもらうきっかけづくりとして養成講座を実施。担当者が地域に出て、一軒一軒回りながら参加の呼びかけ



地域アセスメントと担い手づくりの同時実施

- ・受講生自身による「生活課題実態調査」の実施
- ・一方通行のニーズ調査に終わらせず、参加働きかけを住民目線で同時に実施



居場所と有償ボランティア創出を共に実施

- ・出てきたニーズ、担い手としてのやる気をすぐに生かす仕組みづくり



より幅広い地域課題を話す場の設定

- ・地域で足りないものを補い合い、「地域を磨く」ための話し合いの場



(例) 第1層・第2層の協議体 体制づくり 大分県竹田市

官民協働の地域づくり

- ・17地区社協(小学校区単位)を核とした地域づくり
- ・地区社協では、地域行事や日々の見守り、敬老会、配食など地域に密着した活動を展開
- ・「こういう地域になったらいいな」という「目指す地域像」をみんなで共有
- ・地域単独では解決できない、より広範囲での課題や、生活支援に関する困りごとへの対応策、必要な活動、体制をどうやって作り出し、つないでいくかを協議体で検討していく

協議体と地区社協との関係

地区ごとに「よっちはなそう会」を実施 (地区社協構成メンバーを中心に、地域活動に興味がある方など誰でも参加可能)



新しい地域ささえ愛推進会議・第2層地域ささえ愛推進員: 地域をつなぐ「御用聞き」



新しい地域ささえ愛推推会議・第1層地域ささえ愛推進員: 市全体の調整役

第1層協議体

【地域の声を集め、助け合い活動を広めていく場】

行政、市社会福祉協議会、包括支援センター、社会福祉法人、地区社協役員、地縁組織役員、医師会、民間企業など、多くの意見を取り入れられるよう、検討中

- ・コーディネーターの組織的な補完
- ・第2層間との情報共有、第2層のバックアップ
- ・第1層構成団体内の情報共有、調整、横の連携
- ・資源開発、サービスの創出に向けた企画、立案、市への政策提言
- ・高齢者だけでなく、障がいのある方、子育て世帯など、様々な視点からの地域づくり、まちづくり

明治地区 蛭の里 支え合いマップ作成の取り組み

福祉に対する意識の向上を図り、地域でできる支え合いや、見守り活動などに取り組むために、まずは、**70歳以上の一人暮らしの方と80歳以上の夫婦世帯の方について、見守りの体制づくりをしよう**と、自治会単位で住民の手によるマップ作成をすることになった。

- 自治会長、福祉委員、民生委員と協力して作成
- 地図に落とすことで、気になる方が住んでいる場所を可視化し、現状の認識を図る
- 情報を共有し、日々の見守りや緊急時に活用する



**マップ作成をきっかけに、明治地域の
みんなで支え合いができれば、..**



**明治のみんなと一緒に
話し合う機会を持とう！**

これまでの福祉懇談会の拡大版として、より多くの皆さんに声かけをして、福祉懇談会「蛍の里 よっちはなそう会」が開催されました

開催日時：2015年12月6日（日）14:00～

**参加者83名ほか各関係機関
※10地区の中で最多人数でした！**

○参加者（地区社協から案内文を発送）

- ・各自治会長、副会長（現任、次回予定者）
- ・各福祉委員（現任、次回予定者）
- ・民生委員・愛育保健推進員
- ・ボランティア「ふれあい」
- ・消防団・明治郵便局
- ・城原駐在所・こどもなど

○告知端末放送での開催案内も
行った



昼食は、まさに「おふくろの味」。調理も地域の方がボランティアで行っています



▲ 「りんどう」昼食は1食300円
調理ボランティアさんは2人合わせて156歳！

◀ 生活支援サービスで行っている障子貼り



2015年3月にスタートしたくらサポ第4号の竹田南部「あけぼの」
男性の参加者もいきいき、笑顔があふれます



関心が高まる地域助け合い 各地のフォーラム・研修会には多くの皆さんが参加



(さわやか福祉財団実施のフォーラム・研修会、ワークショップ等の模様)



「助け合い 見える化チャート」で地域の大まかな課題・状況を共有します

「地縁活動」「居場所」「無償ボランティア」「有償ボランティア」

の4つについて、「ある」「ほしい」「参加する」を個別に尋ねた例です。

それらの大まかな割合を、「助け合い 見える化チャート」として作成し、地域の状況を会場参加者の皆で共有し、次の取り組みにつなげていきます

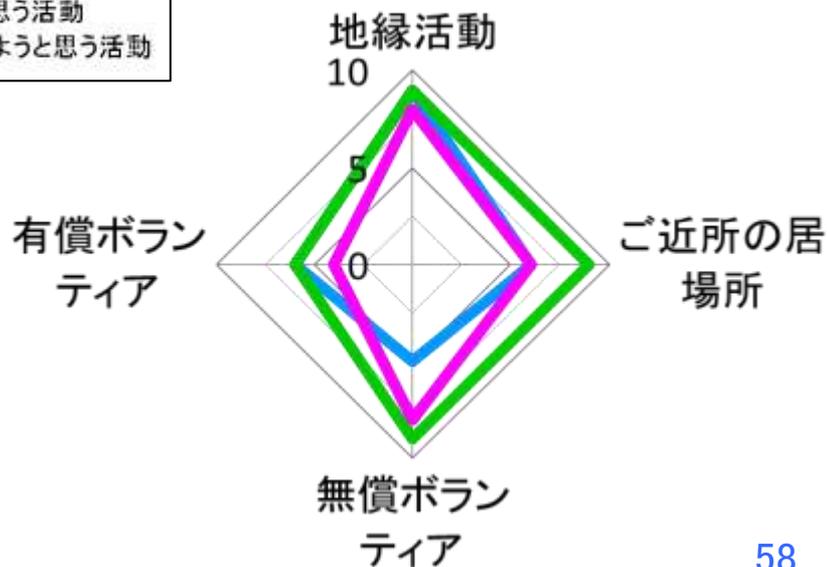


ある
ほしい
参加してみたい

ない



- 現在の状況
- 欲しいと思う活動
- やってみたいと思う活動



瀬戸市 「助け合い 見える化チャート」での会場の様子



地域には、

誰にも役割があり、誰にも出番があります。

誰もが 最後まで 住み慣れた地域で

尊厳ある暮らしが送れるように

そんなあたたかい社会を

みんなで一緒につくりませんか？



公益財団法人
さわやか福祉財団

—ありがとうございました